

**製品名: PTPN1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81390**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PTPN1
別名	PTP1B
遺伝子 ID	5770.0
SwissProt ID	P18031
免疫原	大腸菌で発現したヒト PTPN1 (AA: 40-246) の精製された組み換え断片。

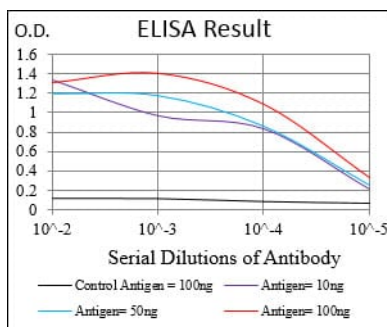
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ (PTP) ファミリーの創設メンバーであり、酵素活性とアミノ酸配列に基づいて単離され、同定されました。PTP は、特異的にチロシン残基上のリン酸モノエステルの加水分解を触

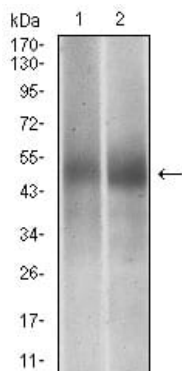
媒します。PTPファミリーのメンバーは、触媒活性に必須の高度に保存された触媒モチーフを共有しています。PTPは、細胞の成長、分化、有糸分裂周期、および癌性形質転換などのさまざまな細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子として知られています。このPTPは、インスリン受容体キナーゼのホスホチロシン残基を脱リン酸化することにより、インスリンシグナル伝達の負の調節因子として機能することが示されている。このPTPは、上皮成長因子受容体キナーゼ、JAK2、およびTYK2キナーゼを脱リン酸化することも報告されており、このPTPが細胞成長制御やインターフェロン刺激に対する細胞応答に役割を果たしていることが示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写変異体が見つかりました。

## 研究分野

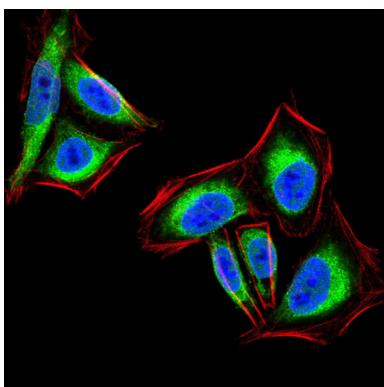
## 画像データ



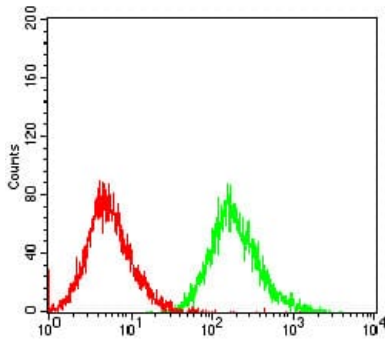
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



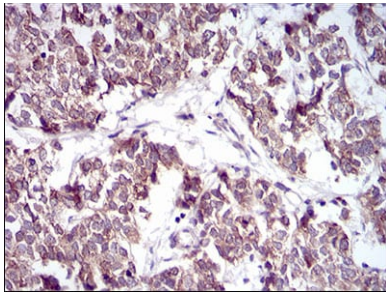
Jurkat (1)、MCF-7 (2) 細胞溶解物に対する PTPN1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット分析。



PTPN1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



PTPN1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Jurkat 細胞のフローサイトメトリー分析。



PTPN1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。